

物価上昇で家計が苦しい



① 前回ご提案した運用の件ですがあれからご主人様と何かお話しされましたか

② なるほど…ただ資産づくりの運用ではなるべく長い時間の幅をとっていただくことが大切なんです

③ たしかにたまたま投資したタイミングが「高値つかみ」だと困るよね

④ そのためには毎年少しずつ運用を続けていくことで全体の成果を平均値に近づけていけると思っています

⑤ はい成長していく企業では資産と負債の双方があるというのが普通ですよ

⑥ お客様の資産づくりも同じような発想で進めていただくといいかもれません

ローン返済を返しながら運用も行うってこと？

いまの円安の状況で運用しないのともったいないのかもね…

わかりましたもう少し考えてみるわ

お客様の資産づくりも同じような発想で進めていただくといいかもれません

リスクを抑えることに加え毎年のリターンを平準化を目指すために何年にも分けて運用してみてはいかがですか

積立投資も行うこと、いわば両建ての発想です。

個人のお客様の中には、違和感を感じる人もいらっしゃるかもしれませんが、企業であれば資産と負債の双方があることが普通であり、そのようにしながら中長期的に成長をしていくものです。個人のお客様にも、そうした観点をもちてもらうことは必要でしょう。

また住宅ローンは、団体信用保険に加入していますから、借入れ時に万が一のことがあれば、その保険金をもって返済されます。つまり、万が一に備えての生命保険契約ができていますと解釈できます。

もちろん、そうした事態は想定したくないことではありますが、「資金的に余剰ができたから、何が何でもローンの繰上げ返済に充当する」と考えるお客様に対しては、こうした観点も視野に入れてもらうことも大切です。

Q4 運用未経験のお客様からの質問



物価の上昇で家計が苦しい…だからまだ運用はできそうにない…

Q3 では、インフレが進行し、くりとじての資産運用をしていくことの必要性を、お客様に考えてもらうことがポイントでした。その必要性を認識したお客様から出てくる反応の代表的な例としては、「でも、損をすることが心配だ」ということです。

「今は、お金のゆとりがない」という2つが挙げられます。前者については、タイミングをみて分散投資をしていく（さらには、定時定額などの積立投資をしていく）ことが、1つの答えになってきます。では、後者に対しては、どのような考え方を示していけばよいでしょうか。

例えば、40歳代前半のお客様を想定してみましょう。住宅ローンの返済負担、子どものこれからの教育資金など、資金的にゆとりがもてない状況であることが多いと思います。

お客様としては「余裕資金ができたなら、どんどん住宅ローンの繰上げ返済に充当していきたい。そして50歳代半ばを過ぎれば、子どもも大学を卒業し、資金的にもゆとりが出てくる。退職後、老後に向けての資金づくりを始めれば、十分間に合うだろう」と考えることが想定されます。

たしかに物事の順番として、まずは当面のこと、それがクリアされてから次のこと…と進めていく発想は一般的でしょう。しかし、資産運用に関しては、できるかぎり長期間の幅で取り組むことが、リスク管理上も極めて重要なことです。

長期投資の効果を示す資料をみると、「10年間の運用成果（年率）として、最大で年率プラス19%、平均で年率プラス6%、最小で年率▲9%」とあります。これは、もし2022年に1回だけ投資を行った場合、最小の年率▲9%（つまり10年間は単純計算で▲90%）に陥る恐れがあるということを意味しています。

これを回避して、できるかぎり平均の年率プラス6%に近づけていくためには、2022年も2023年も毎年、投資を続けていくことが重要です。サイコロを何回も振っていくと、次第に平均化してくるのと同じ

考え方です。

これは、2022年、2023年…と、マーケット環境は毎年異なっていることから、一時の環境に左右されないために必要な行動といえます。

よく「時間を味方につける」と言われますが、これは単純に一時で投資した商品を長期間保有し続けることだけではなく、長く幅をとった投資期間の中で、効果的なタイミングで分散投資を行っていくことも含まれているのです。

ローン返済と積立投資を両建ての発想で行う

このように考えると、前述したお客様も、退職まで5〜10年以内となつてから老後資産形成を始めるよりは、少しずつでも投資を積み上げていくほうが、確率的に、預金では期待できないような平均リターンを追求しやすくなつていきます。ローンの返済をすること、それと同時に